

実践高校 授業で英語力も日本語力もつけていきたい！

佐々木 忠夫 (ささき・ただお 宮城県・小牛田農林高等学校)

〈メッセージ〉 コロナ禍が生徒の心に与えた影響はとて大きいようです。保健室へ行く生徒が増えました。欠席や遅刻が多くなった生徒もいます。また、まわりの友だちへとげのある言葉を発してしまっている生徒もいます。3カ月の休業で友だちに会えなかった心の傷、不安や恐怖をどう和らげていったらいいのか考えながら日々の教育活動をしていきたいと思っています。

はじめに

最近、養護教諭から保健室利用者が増えているという話を聞いた。しかも、体調が悪いから利用している生徒もいるが、話を聞いてほしくて来ている生徒が少なからずいるということだった。

しかし、それを言葉で語るができる生徒が少ないようで、養護教諭はゆっくりと生徒の話聞いていてくれているようだ。

今の言語教育で必要なのは自分を語る言葉の力をつけていくことだと思う。

1. 英語の授業で英語力も日本語力も

今、英語だけでなく日本語力も低下している。助詞や文末のひらがな部分がきちんと音読できない生徒すらいる。

榎本博明は著書『教育現場は困ってる』の中で「英語を日本語に翻訳するというのが従来の英語の授業だったが、それは国語力と英語力を駆使した知的格闘技のようなものであり、知的刺激に溢れるものだった」と言っている。

昔の英語教育は英語だけでなく、日本語力の向上にも役立っていたのだろう。だから、英語授業で日本語力を向上させることもできるはずだ。

2. フレーズ訳では意味が取れません

英文は頭から理解することが必要である。しかし、そのためのフレーズ訳ができない生徒は多い。

名詞(句・節)に適切な助詞を使えない。主語を訳すとき、「～を」とか「～に」を使ってしまう。「主語って何ですか?」と聞いてくる生徒さえいる。主語や動詞といった概念がわからないこともある。

さらに文全体で何を言っているのかわからない。特に、複文や前置詞句・準動詞句さらに関係代名詞

節などのある英文は、各フレーズをどうつなげていったらいいのかわからない。この難しさは後置修飾語が日本語にはないからである。

3. フレーズ訳で意味が取れるために

フレーズ訳ができるために、私は寺島メソッドの記号を使っている。そうすることで、フレーズの区切りが視覚化でき、英語の語順の基本である「主語+動詞+目的語」が見えてくる。

授業では(資料①)、「動詞はどれですか」「enjoyです」「では、誰がenjoyするのですか」「we(私たち)です」「weが主語ですから、助詞は何がつきますか」「『～は』です」「では、何を『楽しんでいる』のですか」「『伝統的な日本料理』です」「では、助詞は何がつきますか」「『～を』です」だんだんと適切な助詞を使えるようになっていく。

また、フレーズはスラッシュで区切るのではなく、番号をつける。フレーズ訳を足し算し全体を訳させる。日本語力の弱い生徒は全体訳ができない。しかし、ゆっくりと時間をかけて、繰り返していくうちにできるようになる。最後には全体訳をしなくても、全体の意味が取れるようになる。(資料①)

4. 英作文は日本語力を基礎に

英文を書いたり、話したりする上でも、日本語力が基礎になる。英語学習の初めの段階ではやはり日本語で考えてから英文を作ることになる。

しかし、日本語力が弱い生徒は英文を作りやすい日本語を考える力がない。複雑な日本語を簡単な日本語に書き換える能力がないのだ。

授業ではまず並び替え英作文を行ってから、それを使って自己表現をさせるようにしている。

並び替え英作文も語彙力を要求するので、英文の構造に集中できず、苦手な生徒が多い。

(1) The Japanese dinner table (is) an international one. ※ oneは数詞になるため、数詞が動詞を修飾するために使う。ここではtableである。

1 _____ 2 _____

(2) Japanese (enjoy) popular dishes 2 [from different countries] 3 every day.

1 _____ 2 _____ 3 _____

(3) And 2 even [what we (enjoy) 3 traditional Japanese dishes], 4 we often (eat) 5 [what (is) imported] 6 from other countries].

1 として、2 _____ 3 _____

2+3+4+5 _____ 4 _____ 5 _____

(4) (Take) a traditional Japanese breakfast, 2 [for example]. ※ take は動詞のはじめに用いられるので、命令文

1 _____ 2 _____

(5) Miso soup and zutso 2 (are) usually (on the menu). 1 _____ 2 _____

(資料①)

日本語の意味を表すように語句を並び替えなさい。

1. [郵便局が] [どこに] [あるか] [あなたは] [私に] [教えてください] [くれませんか] ?
the post office where is you me tell could ?

2. [彼は] [どこに] [そのお金を] [隠したのか] [あなたは] [知っていますか] ?
he where the money hid you know do ?

(資料②)

しかし、朝日大学准教授山田昇司は著書『英語教育が蘇るとき—寺島メソッド授業革命—』の中で、日本語の下に語句を配置し、日本語に記号をつける並び替え英作文問題を提案している。

授業では資料②のような形の英作文を行っている。みんなで主語や動詞を探し、日本語に記号をつける。その記号をもとに、生徒が個々英文に並び替えていく。そうすることで、日本語と英語の語順の違いがわかる。さらに、日本語で主語や述語(動詞)が判別できない生徒もできるようになる。

こうすると、語彙力がなくても取り組み、英文の基本構造だけに集中して取り組めるようになる。実際、「日本語で動詞はどれですか」と聞くと、あちこちから声が上がります。そして、みんなで○を付けていく。文法の授業がとても活気があるのだ。

また、中学校文法の復習のため、並び替え英作文問題を30数枚作ったが、英語の苦手な生徒が2週間でやり終えてしまっていて、得意げに提出してきたこともある。(資料②)

5. レポート・感想は日本語で

各レッスンが終わると、その内容に関するレポートの提出を求めている。また、長期休業中でも英文を読み、感想を書かせる。コロナ禍の休業中でも英語の絵本を読ませた。そして、感想を求めた。

しかし、レポートや感想がなかなか書けない生徒が多い。小学校・中学校で文章を書く指導が十分に行われていないようだ。生徒に聞いてみても読書感想文以外の記憶がないと言う。

レポートや感想が書きやすいように、書き方のマニュアルを作っている。

(1) 印象に残っている文・文章、または場面を抜き出す。

- (2) それが英語の場合は日本語訳する。
- (3) なぜ、それが印象に残っているのか、その理由を書く。
- (4) 全体で疑問に残っていることとその理由を書く。さらに調べてわかったことを書く。

(1)の文を2文、3文と増やせば、いくらでも書けることになる。

その中の一部を英訳させることもある。そのときには日本語を簡単な日本語に書き直させ、文節ごとに区切り、その下に英語の語句を書き込ませる。

おわりに

言語は会話言語能力と学習言語能力の二層になっている。このうち学習言語能力が読解力の基礎になっていて、思考を支えている。この力が今の子どもたちは弱いと思う。

また、心の中に抱えている漠然としたイメージは言語化することで、形が与えられ、思考の材料・道具となる。

コロナ禍の漠然とした不安を言葉にすることでどう対処したらいいかを考えることができるはずだ。

そんな言葉の力をつける授業がいま求められていると思う。

【参考資料】

- 山田昇司(2014)『英語教育が蘇るとき—寺島メソッド授業革命—』明石書店
- 寺島隆吉(2019)『寺島メソッド「日本語教室」レポートの作文技術』あすなろ社
- 永井忠孝(2015)『英語の害毒』新潮新書
- 榎本博明(2020)『教育現場は困ってる—薄っぺらな人間を作る実学教育』平凡社新書